

令和7年度 第2回能代山本定住自立圏共生ビジョン懇談会の概要

○日 時 令和7年11月19日（水）午後1時55分～2時50分

○場 所 能代市役所新庁舎3階 会議室9・10

○案 件

（1）基本目標・重要業績評価指標（KPI）の達成状況について

分 野	意見	対応
医療	医学生への就学資金貸付は、県内就職の学生向けか。	県では、卒業後、県内医療機関に勤務にすることにより返還免除となる奨学金制度を整備している。
産業振興	新規高卒者の圏域内の就職先は把握しているのか。	就職先は把握していない。

（2）次期共生ビジョンの素案について

分 野	意見	対応
圏域の将来像	藤里町の高齢化率は、2025年時点で既に56%を超えているのに、2030年の目標値が53.8%とあるのは、大分若返らないといけない。目標値がおかしくないか。	各市町から報告いただいた人口ビジョンの数値である。各市町の人口ビジョンに改定があれば、それに伴い修正を行いたい。
	圏域の将来像が掴みづらい。病院数はいくつ、学校数はいくつ等の数字を掴むことで、目標が生きてくるのではないかと感じている。	定住自立圏構想は、1市3町のそれぞれの取り組みを1つにまとめた性格となっており、それぞれの市町の最大公約数的な取組等をこのビジョンに位置付けている。将来像が理念的な表現となることは、やむを得ないものと考えている。それぞれの市町の取り組みや連携を深め、安心して暮らし続けることができる地域を維持していくことが定住自立圏の基本的な考え方になっているため、このような表現となることをご理解いただきたい。
	人口目標について、各市町の人口ビジョンを元に算出しているが、市町によって人口ビジョン	社会減が進んでおり、八峰町の現人口は、令和5年度に公表された社人研の2025年推

	<p>の考え方が異なるため、社人研より多かったり、少なかったりする。1市3町で比較すると、八峰町が少なく見えるため、人口ビジョン策定にあたり担当者の横の連携が必要だと思う。</p>	<p>計値より 350 人少ない。そのため、当町の人口ビジョンは、社人研の推計値を下回る数字としている。現在、人口ビジョンと総合戦略と合わせて策定しており、今後数値の修正があれば、修正することとなることを承知いただきたい。三種町では、持続可能な地域社会総合研究所の人口推計を使用して、現在、8 年度からの 5 カ年計画の策定に取り組んでいる。国調数字がベースであることは変わらないが、社人研と考え方が異なる。また、このまま推移すると厳しい数値となるが、定住世帯と移住世帯の推計値を入れて試算している。基準を統一にしたほうがよいのではとの話があったが、それぞれ町や市の考え方が異なる。考え方を統一すると、町の基本的な計画も整合性が取れなくなるので三種町の考え方を説明させていただく。</p>
	<p>各市町の考え方がバラバラとなると、共生ビジョンの位置付けに疑問が出てくるため基本的には考え方は同じでなければならないと思う。共生ビジョンを重要視して進めていくのであれば、必要だと思う。各市町の計画を超えた上で、この共生ビジョンを考えていくものではないかと思った。</p>	<p>各市町の考え方に違いはあるが、定住自立圏構想は、平成の大合併がある程度落ち着いたところに出てきた新たな広域行政の在り方に関する考え方である。日常生活圏域は広がっており、合併しなくても、その中でどういった繋がりを作るかということで、能代市が中心市宣言をし、各町とそれぞれ一対一の協定を結んでいる。能代市と同じことをするというのではなく、それぞれの町の考え方を尊重しつつ、できることは一緒にやっ</p>

		ていくとの定住自立圏の考え方に基づきビジョンを策定している。一方、違いを認識するのは非常に重要で、いろんな考え方が出てくる。今回の意見をビジョンに位置付けることができるか分からないが、今後も連携を密にしながら、一緒になって、施策を考えていきたい。
医療	新たな KPI として、産婦人科勤務医数、就業助産師数を設定いただきありがたい。今後、能代山本で分娩ができなくなり、診察は地元病院、出産は秋田市の病院となることも考えられる。その場合の家族の付き添い費用（ホテル代等）を考えていただきたい。	北秋田市では、市内の分娩施設がなくなり、他地域の分娩施設への通院費等を助成している。将来的には、このような先進事例等を研究していきたい。
	産婦人科対策については、医師会としても取り組んでおり、難しいところもあるが、引き続き、取組を進めていきたい。	※意見として伺った。
教育	前回懇談会の意見を検討いただきありがたい。市長政策のため、定住自立圏において検討するのはおこがましいと思われませんが、広域として教育行政の方向性を考えるタイミングはすでに遅くなっていると感じている。これからどうしようもなくなった場合、方向性は1つしかなくなる。だから、どうしようもなくなる場合に、広域学校組会のような考えがあってもいいのではないかと思ったところです。	※意見として伺った。
産業振興	延べ宿泊者数の KPI は年 1 % 増とあるが、設定根拠は。	年 1 % 増の根拠は、観光 DMO にて、年 1 % 増の目標を掲げており、その考え方を踏まえて設定している。

	<p>洋上風力の撤退により宿泊客を確保するのは難しくなるのではないか。</p>	<p>洋上風力撤退の影響があると思われるが、工事本格化前の撤退のため、宿泊者数に大きな影響はないと考えている。撤退後、国では新たな事業者を決める手続きに入っていくので、今後増えていくと期待している。</p>
	<p>三種町、八峰町は宿泊事業者の撤退により、延べ宿泊者数の目標は難しいと感じているが、能代市に期待するところがある。能代駅前のホテル開発状況について教えていただきたい。</p>	<p>年次計画的に進んでいると伺っている。</p>
	<p>宿泊者数1%増の考え方は分かったが、この地域の観光客は増えていない中、各宿泊施設は、客の取り合いとなっている。ハタハタ館の例で言うと、能代市に新しいホテルができるとハタハタ館の宿泊客数に影響する。その影響が落ち着いてきたところにクマに関する問い合わせが増加し、宿泊を取りやめるケースが出てきている。能代白神の魅力度を上げるよりも先にクマ対策をお願いしたい。</p>	<p>※意見として伺った。</p>
地域公共交通	<p>学生が能代に出てくる手段として大曲から能代までのバス路線があるが、(時間等の関係で)冬やクマが出没している現況においては、送迎は親の負担になるのではないか。また、バス路線が将来的に廃止されることを危惧している。能代までの朝、夕の通学時間帯のバスは残してほしい。</p>	<p>能代市でも地域公共交通に関する計画を策定しており、会議には公共交通事業者にも入っている。公共交通は、市町村を超えて運行しており、各町の公共交通担当部局と相互に連携とりながら、例えばこの路線を廃止した際、それぞれの地域でどのようにカバーしていくのかを情報交換しながら進めている。将来的に公共交通は厳しくなることが予想されるため、連携しながら対応していきたい</p>

		い。
	圏域人口一人当たりの路線バス等の利用回数のK P I 算定の考え方について	路線バスのほか、各市町独自のコミュニティバス等の合計値を当該年度の中間人口（各年度 10 月の人口）で割り算定している。
	欠席者された方には、どのように伝えているか。	会議録を送付している。
	素案 P1 の西暦（2031 年度→2030 年度）、P15 の路線バスエリア路線マップの能代市内線に記載誤りがあるため、修正願いたい。	確認のうえ、修正したい。
	多くの KPI において目標値を比率としたのは、いいことだと思った。医師数、看護師数の目標は、ハードルが高いと感じたが、意気込みと捉えている。	※意見として伺った。
	生活保護受給者や非行児童についてはどのように考えたらよいか。	国要綱の中で基本的に取り組むべき方向性がある程度示されており、それに沿った形で、各市町の事業を取りまとめて掲載している。現在、お話された内容については示されていない。今後、広域の取組内容が拡大されれば検討していくこととなると思う。
	数値達成のためには、事業内容が一番大事だと思う。各市町で目標値を合わせるというのは難しいと思うが、いかにまとまって同じ事業の内容を進めていくことに重きを置いていただきたい。	※意見として伺った。
	主な地域資源の中に、エナジウムパークやこども館といった、観光地点入込客数の算定地点が含まれていないため、検討いただきたい。	検討したい。